

第2四半期決算説明会

42期(2010年3月期)

大研医器株式会社

代表取締役社長
常務取締役管理本部長
管理本部財務経理統括マネジャー

山田 圭一
大浜 正彦
平井 靖人

目次

I .事業概要

II .2010年3月期 第2四半期決算概要

III .2010年3月期 通期業績見通し・成長戦略



I. 事業概要



「クーデック」とは、「クーデター・バイ・テクノロジー」という意味の造語で、当社が展開する商品の統一ブランドです。独創的な技術で医療に革命をもたらしたいという、当社の想いが込められています。

会社概要



ISO 13485:2003

社名	大研医器株式会社
所在地	大阪市中央区道修町3丁目6番1号
代表者	代表取締役会長 山田 満 代表取締役社長 山田 圭一
設立	1968年11月
資本金	495百万円(2009年3月末)
従業員数	110名(2009年3月末) 116名(2009年9月末)
事業種目	医療用機械器具製造販売
売上高	51億8,178万円(2009年3月期) 27億2,721万円(2010年3月期第2四半期)
経常利益	6億3,585万円(2009年3月期) 3億7,422万円(2010年3月期第2四半期)

事業の特徴と方向性

- 当社は大学病院等の最先端医療現場のニーズから、特許性のある画期的な製品を開発する研究開発型の医療機器メーカーである。
- 大手病院に対して直接営業を行い、医療現場と太いパイプでつながっている。
- 採算性の高い DISPOSABLE 製品を主軸としており、既存ユーザーからの安定的な需要を確保している。
- 今後、当社が得意とする麻酔科領域と連携している外科、救命救急等へ対象医科領域を拡大し、製品開発を進めていく。
- 国内の約10倍の市場規模を有する海外への展開を積極的に推進していく。

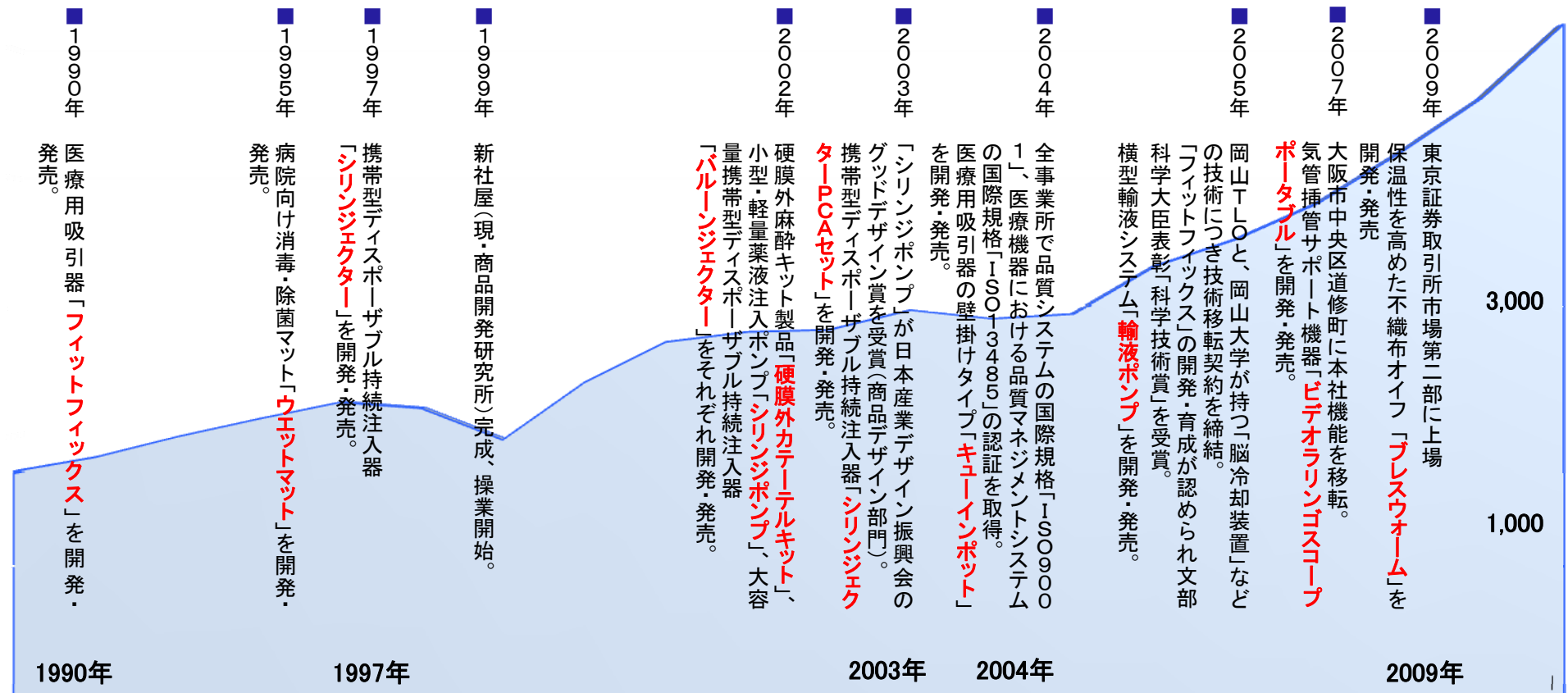
医療現場第一主義の研究開発型医療機器メーカー

沿革

1968年	医療機器販売会社として創業
1990年	本格的なメーカーとして始動

売上高の推移
(百万円)

2008年度 5,181



事業セグメント(2009.03期)



手洗い装置関連
 無菌水で手を洗う装置
 右は手を拭くワイペル



電動ポンプ関連
 電動式ポンプ、何台も
 まとめられるコンパクトな装置



シリンジェクター関連

流量制御のためのスパイラル細管と
 真空を利用して一定の薬液投与を確保

フィットフィックス関連

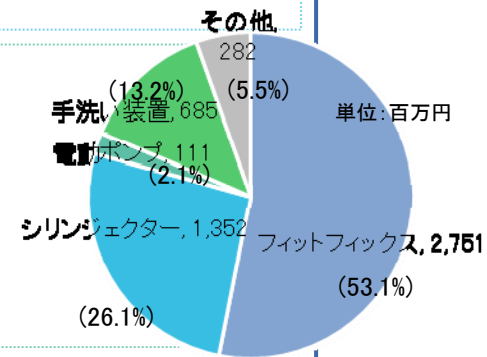
フィットフィックス

医療用吸引器、血液凝固剤が
 既に入っている密封容器、
 血液の漏出が無く安全に廃棄



QinPot

05.3期に投入された新製品
 病棟における廃液処理に便利



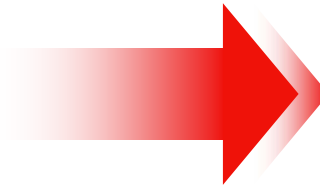
ディスポーザブル製品が主軸

主要製品概要 ～フィットフィックス関連(吸引器)

ガラス瓶



院内感染の脅威



特許第2905327号
特許第2609810号

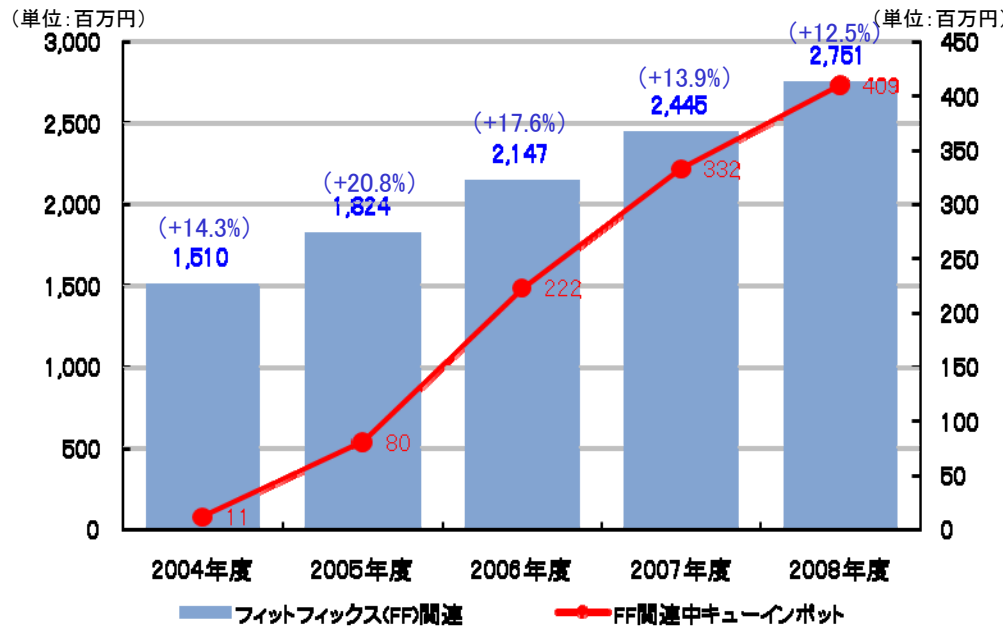


特願2005-506948

フィットフィックス

PinPot

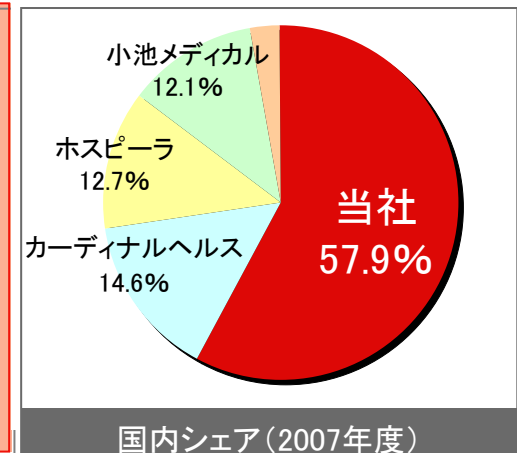
フィットフィックス関連売上推移



手術中に出る血液・体液等の廃液を吸引し、密閉容器内で凝固する凝固剤一体型吸引器。

血液暴露による感染症を防止し、看護師の負担を大幅に軽減できる。

**ガラス瓶からの
置換えで
約40億円の市場を
創出**



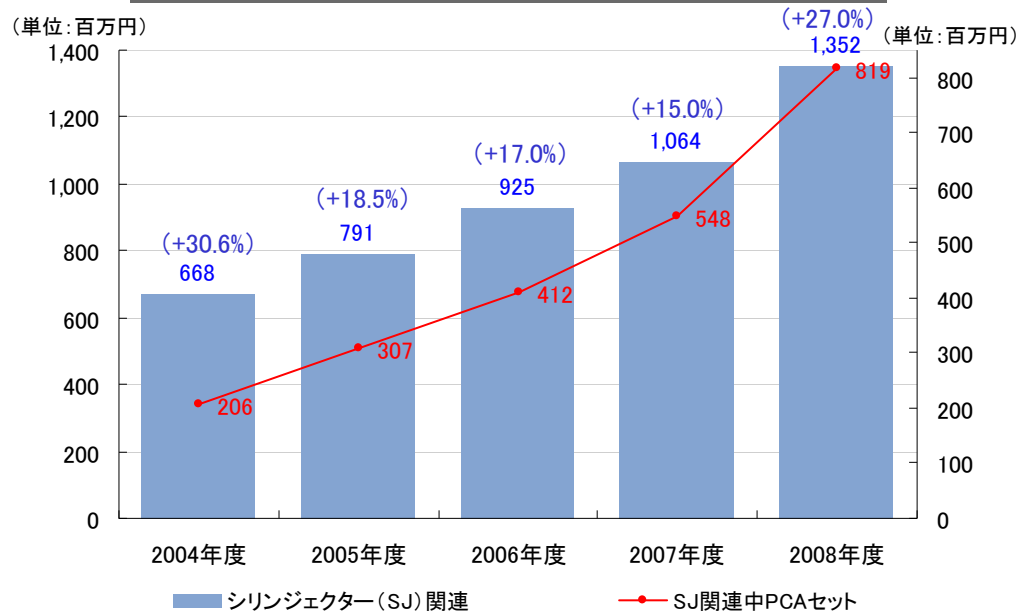
出典：矢野経済研究所

「2008年版 汎用品市場の将来展望」

主要製品概要 ～シリンジェクター関連(持続注入器)

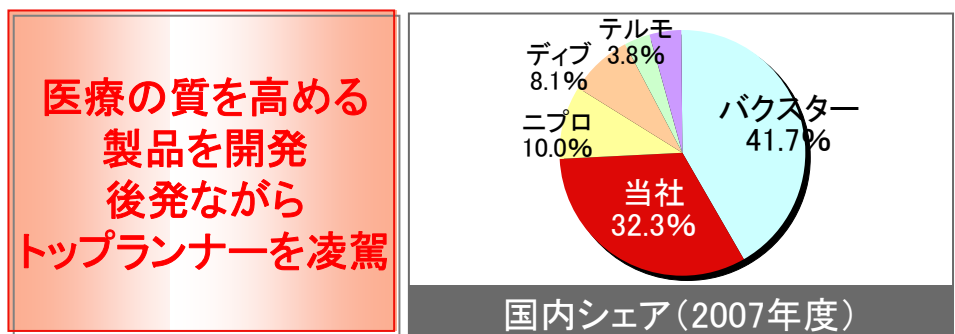


シリンジェクター関連売上推移



麻酔剤、鎮痛剤等を持続的に一定の流量で投与するために使用する製品。

特許技術の大気圧式による注入器「シリンジェクター」は、流量の安定性が高く、効果的な医薬品投与を可能にする。



医療の質を高める
製品を開発
後発ながら
トップランナーを凌駕

出典：矢野経済研究所
「2008年版 汎用品市場の将来展望」



Ⅱ. 2010年3月期 第2四半期決算概要

□前年同期・予想対比 とともに好調

(単位:百万円)

	2009年3月期 (2Q実績)	2010年3月期 (2Q予想)	2010年3月期 (2Q実績)	前年同期比	予想対比
	金額	金額	金額	金額 増減率	金額 増減率
売上高	2,503	2,588	2,727	224 9.0%	138 5.3%
売上総利益(率)	1,250 (50.0%)	1,269 (49.1%)	1,359 (49.8%)	108 8.7%	89 7.0%
販管費(率)	883 (35.3%)	1,028 (39.7%)	976 (35.8%)	92 10.5%	△52 △5.1%
営業利益	367	241	383	15 4.4%	141 58.7%
経常利益(率)	357 (14.3%)	228 (8.8%)	374 (13.7%)	16 4.7%	146 64.0%
当期純利益	225	132	212	△13 △5.8%	79 60.0%

※上記の予想値は、2009年5月15日発表の当初予想値であります。

□ 2010年3月期 第2四半期決算のポイント

◆ 売上高は2,727百万円(前期比9.0%)と健闘

フィットフィックス

- フィットフィックスは、外資系競合他社の日本での事業縮小に伴い、積極的な新規案件獲得活動を行っている(主に2Q)。
- 新規案件分の単価は下がるが、数量が大きく伸びる見込み。

キューインポット

- 吸引力が上がった新型キューインポットを3Q以降に発売するため、積極的な拡販を控えていた(主に2Q)。
- ライナーの一括購入等によりコストダウンが進んでいる。

シリンジェクター・バルーンジェクター

- PCAセットを中心として、販売単価の下落が少なく売上好調持続。
- PCAつきへの移行傾向は引き続き続いている。

□ 2010年3月期 第2四半期決算のポイント

◆ 経常利益は374百万円(前期比4.7%)に増加

当初業績予想と比べ、経常利益は146百万円(予想対比64.0%)の大幅増加

～販売費及び一般管理費～

- 脳保護装置等への研究費投下により、研究開発費が172百万円→194百万円へ**22百万円増加**
- 従業員増加等により、人件費が**26百万円増加**
- 海外生産委託準備に伴い在庫の積み増しを行ったため、売上増加率(9.0%)以上に荷造運賃費が増加(14.5%:**10百万円増加**)
- 上場維持費用、倉庫保管料等の業務委託費用が**12百万円増加**

□売上構成(セグメント別)の推移

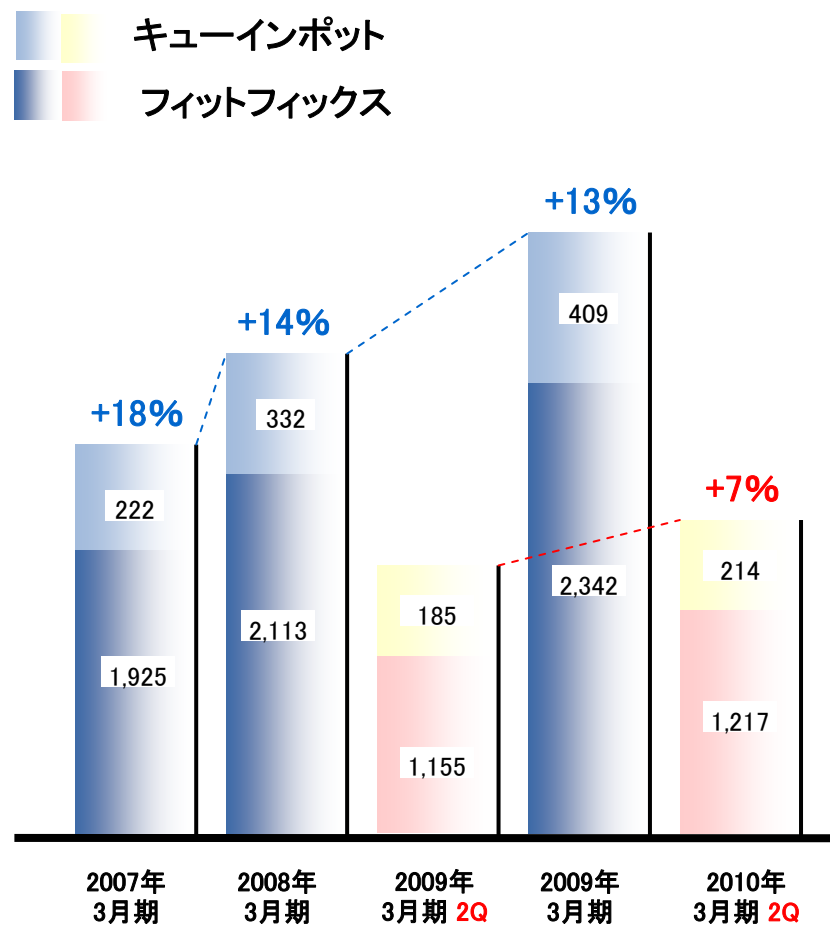
キューインポット・PCAセットが牽引

(単位:百万円)

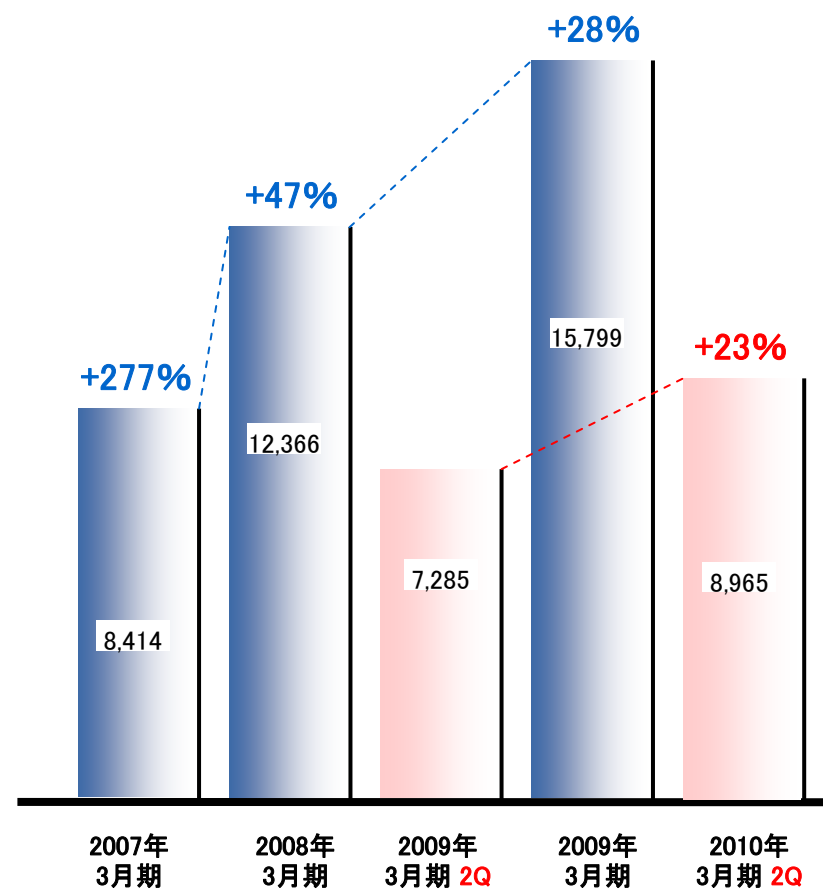
	2009年3月期 (2Q実績)		2010年3月期 (2Q実績)		前年同期比
	金額	構成比	金額	構成比	増減率
フィットフィックス 関連 (キューインポットのみ)	1,340 (185)	53.6% (7.4%)	1,431 (214)	52.5% (7.9%)	6.8% (16.0%)
シリンジェクター 関連 (PCAセットのみ)	651 (382)	26.0% (15.3%)	770 (486)	28.2% (17.8%)	18.2% (27.1%)
電動ポンプ 関連	43	1.7%	35	1.3%	△18.1%
手洗い設備 関連	336	13.4%	342	12.6%	1.9%
その他	131	5.3%	146	5.4%	11.8%
合計	2,503	100.0%	2,727	100.0%	9.0%

《フィットフィックス関連》

【売上金額】 (単位:百万円)

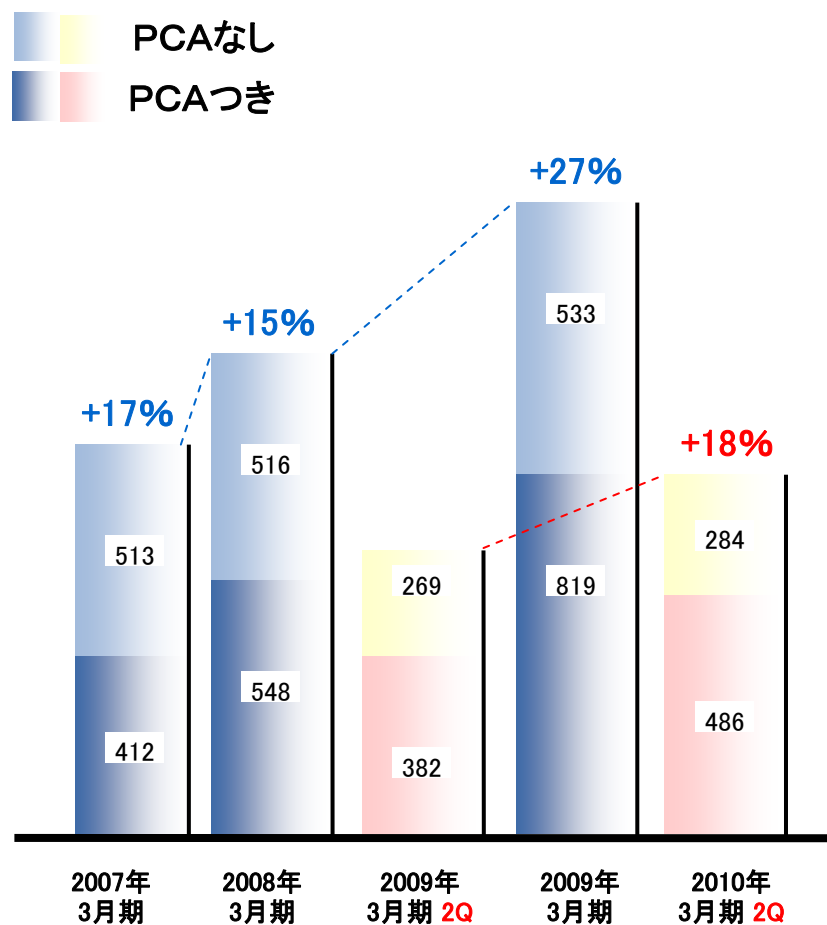


【キューインポット(ライナーのみ) 売上数量】 (単位:ケース)

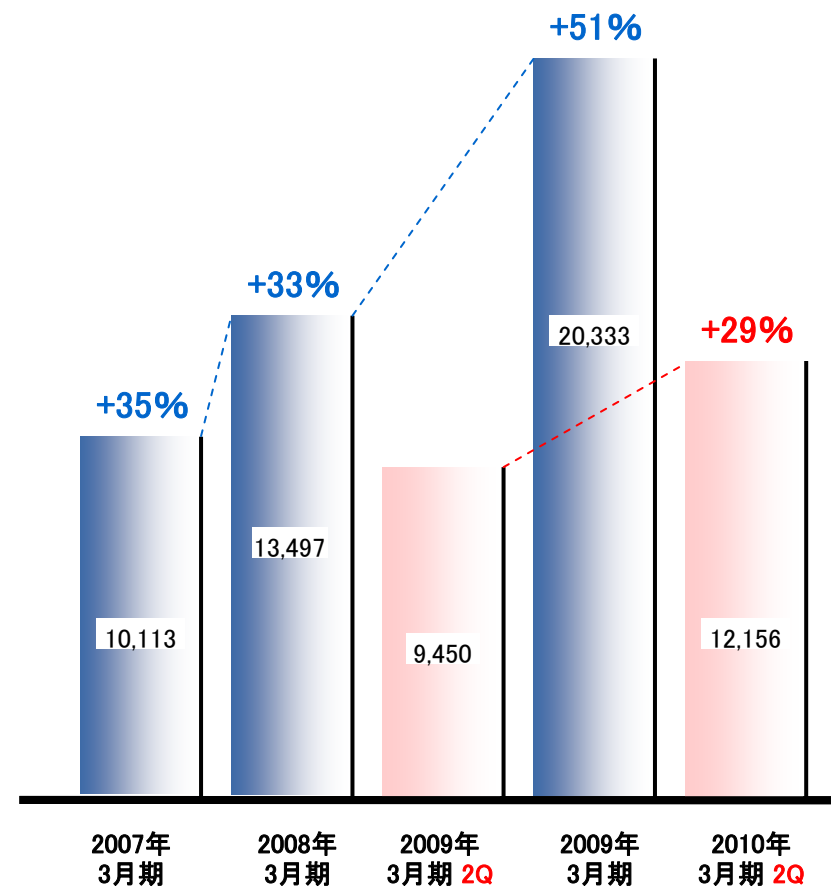


《シリンジェクター関連》

【売上金額】 (単位:百万円)



【PCAつきシリンジェクター関連売上数量】(単位:ケース)



□ 財政状態（貸借対照表主要科目）

（単位：百万円）

	2009年3月期	2010年3月期 (2Q実績)	増減	主な変動要因
現金預金	1,161	1,014	△146	
受取手形、売掛金	1,857	1,888	30	売上の増加に伴う 販売好調のため一時的に減少(SJ)
たな卸資産	702	648	△53	海外へ一部生産ライン移管中、一時的に減少(QP)
有形・無形固定資産	2,687	2,687	0	ERP販売システム77百万円
その他	500	502	2	
資産合計	6,908	6,741	△167	
支払手形、買掛金	575	484	△90	材料費の減少分等
短期・長期借入金、社債	1,991	1,937	△53	
未払金・未払費用	295	222	△72	上場費用・固定資産関係の減少
退職給付・役員退職引当金	490	490	0	
その他	275	192	△82	未払法人税等、未払消費税等の減少
負債合計	3,627	3,328	△299	
純資産合計	3,281	3,413	131	純利益212、支払配当金△79
負債・純資産合計	6,908	6,741	△167	



Ⅲ. 2010年3月期 通期業績見通し・成長戦略

□2010年3月期商品群別売上見通し

フィットフィックス・シリンジェクター関連が引き続き好調に推移

	2009年3月期 (実績)		2010年3月期 (見通し)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減比 (%)
フィットフィックス 関連 (キューインポットのみ)	2,751 (409)	53.1 (7.9)	2,992 (521)	52.5 (9.1)	8.8 (27.4)
シリンジェクター 関連 (PCA セットのみ)	1,352 (819)	26.1 (15.8)	1,556 (981)	27.3 (17.2)	15.1 (19.8)
電動ポンプ 関連	111	2.1	104	1.8	△6.3
手洗い設備 関連	685	13.2	721	12.7	5.3
その他	282	5.5	327	5.7	16.0
合計	5,181	100.0	5,700	100.0	10.0

※ 上記の予想値は、2009年10月30日に修正発表を行った業績予想に基づいております。

□ 2010年3月期業績見通し&配当

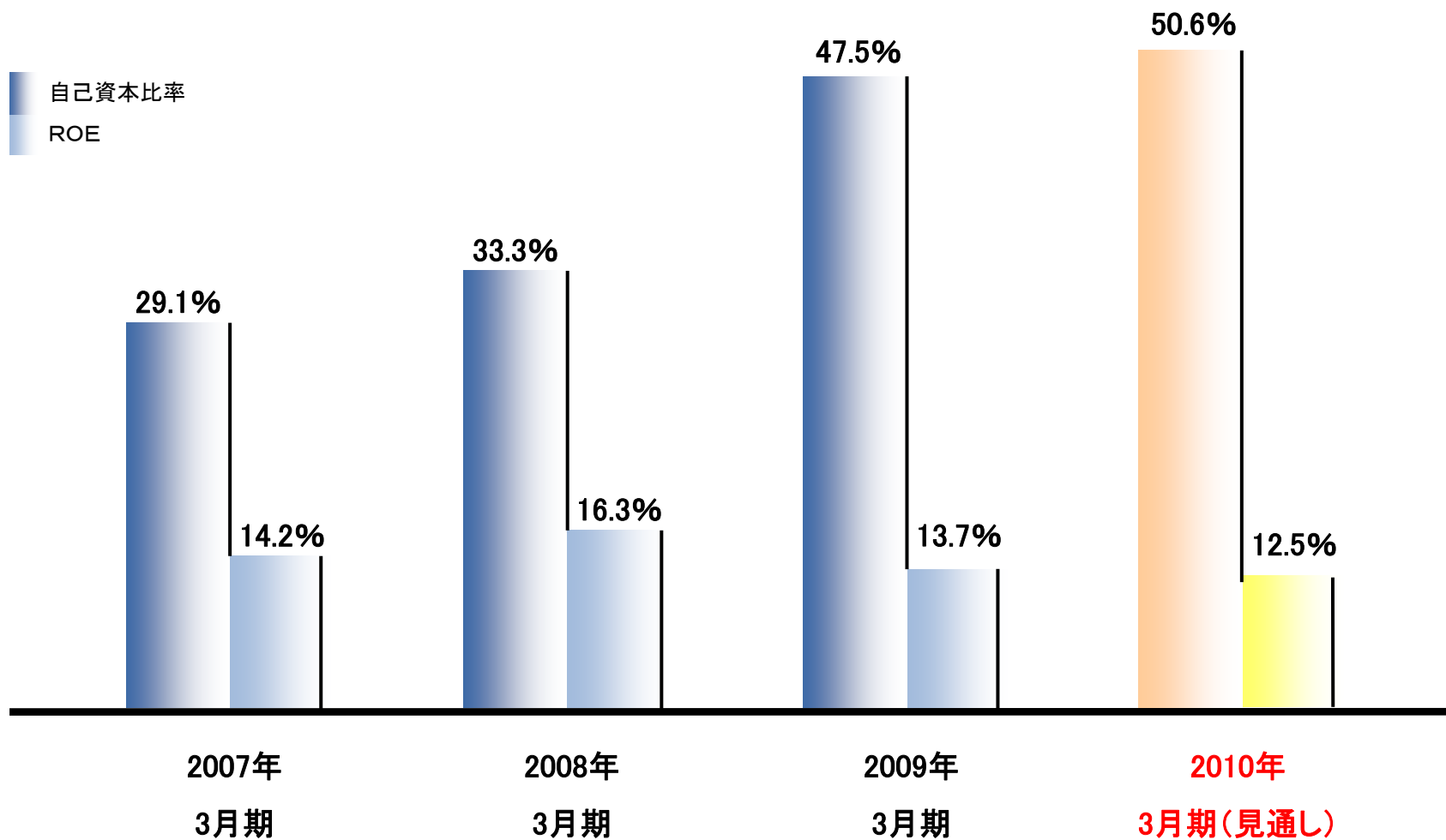
2010年3月期も増収増益見通し

	2009年3月期 (実績)	2010年3月期 (修正見通し)	増加率	<参考> 2010年3月期 (当初見通し)
売上高	5,181百万円	5,700百万円	10.0%	5,600百万円
営業利益	707百万円	770百万円	8.9%	726百万円
経常利益	635百万円	750百万円	18.0%	700百万円
当期純利益	369百万円	431百万円	16.6%	410百万円
1株当たり配当額	11.0円	14.5円	31.8%	14.5円

※上記の予想値は、2009年5月15日発表の当初予想値及び、2009年10月30日発表の修正予想値であります。

※ 1株当たり配当額については、平成21年10月1日付の株式分割(1:2)を考慮した額を記載しております。

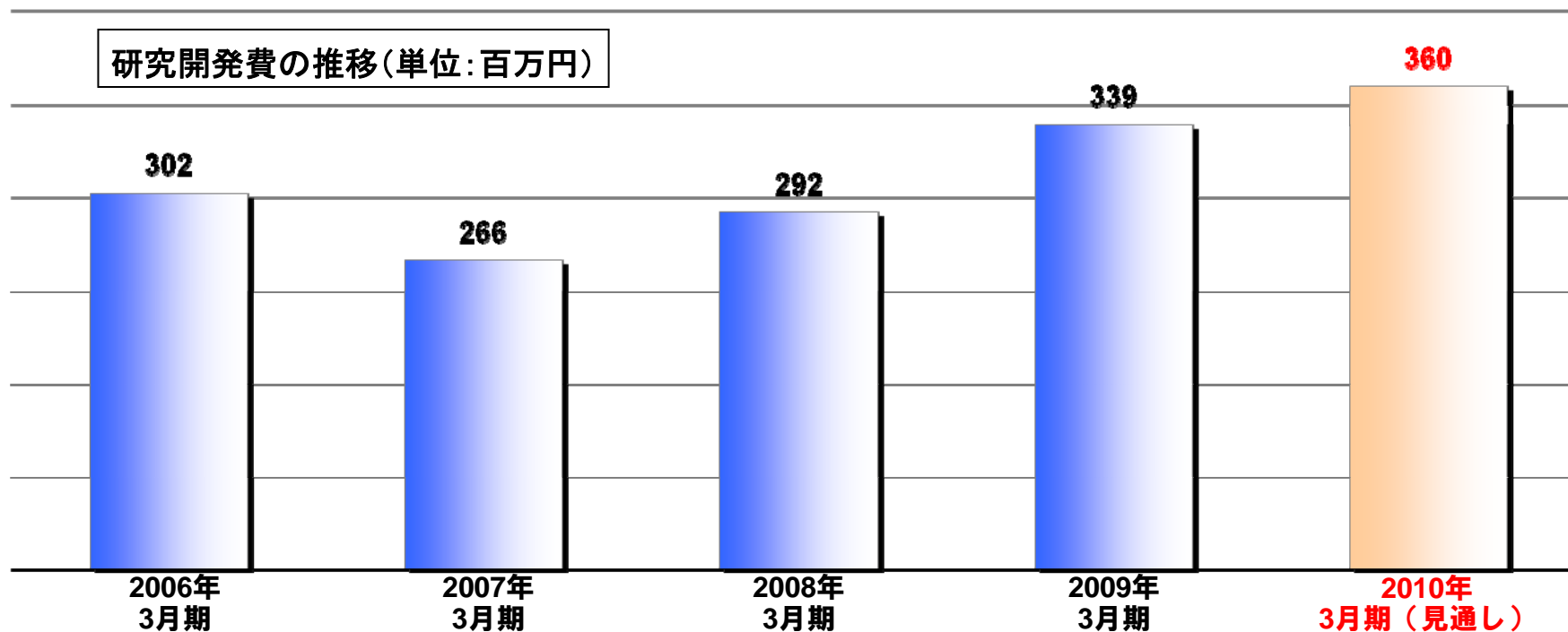
□ ROE10%以上を維持



■ 研究開発費

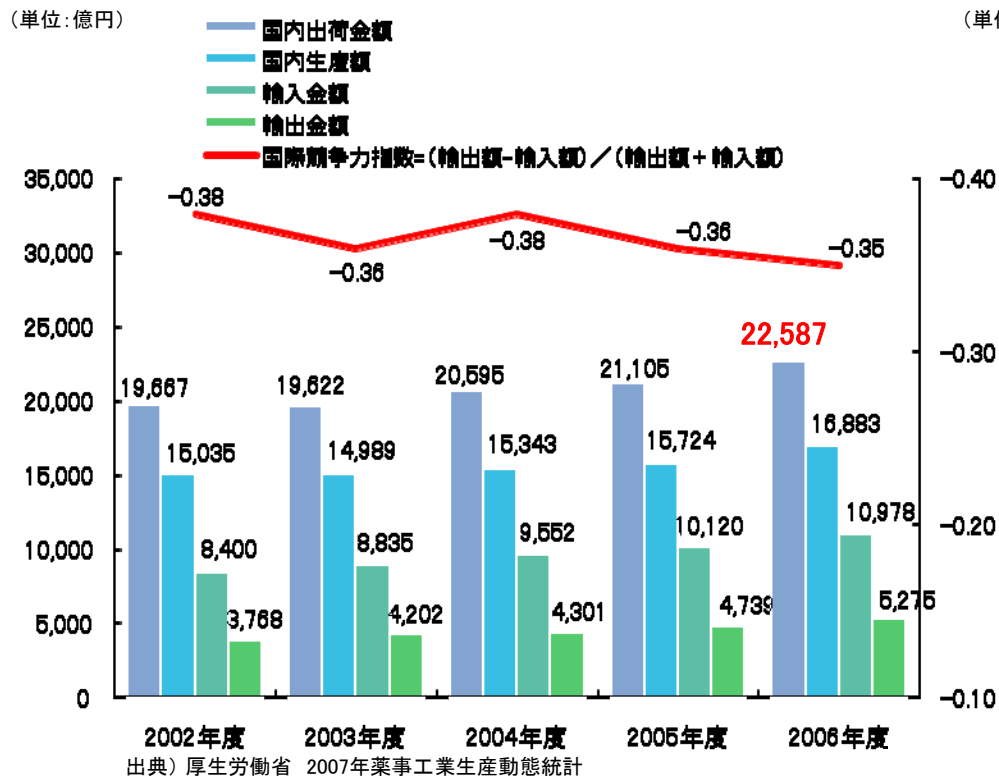
研究開発費比率（対売上高）は毎年6%～8%内外で推移

- 2010年3月期2Q実績は、脳保護装置に重点投資

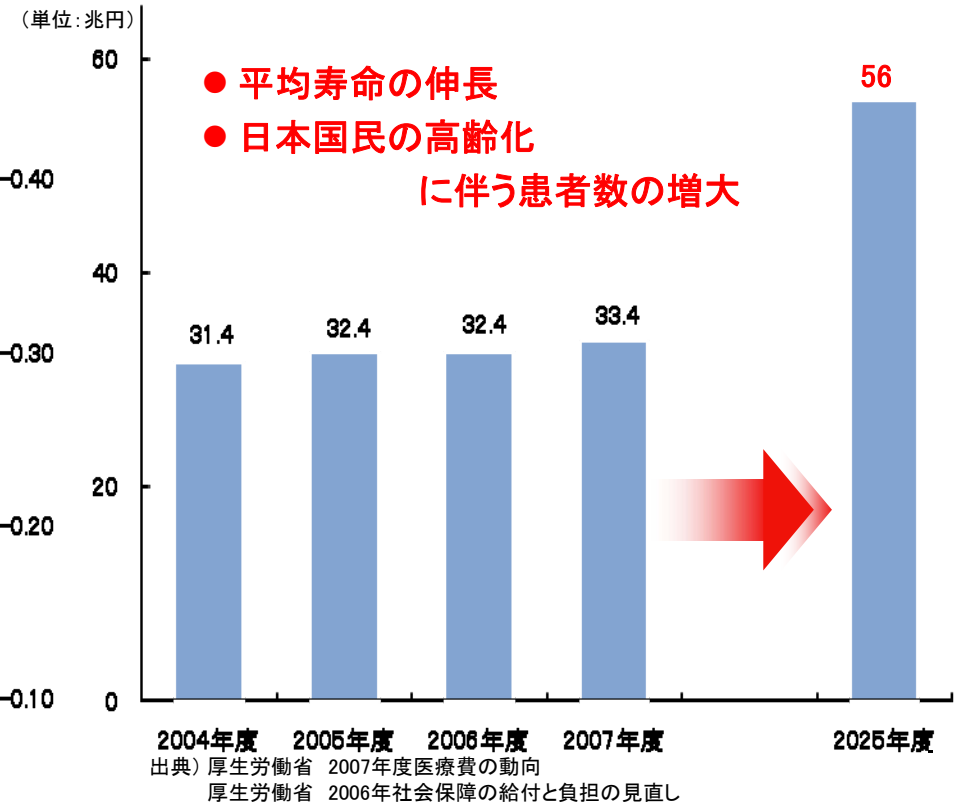


市場規模(国内)

国内医療機器市場の推移(出荷数ベース)

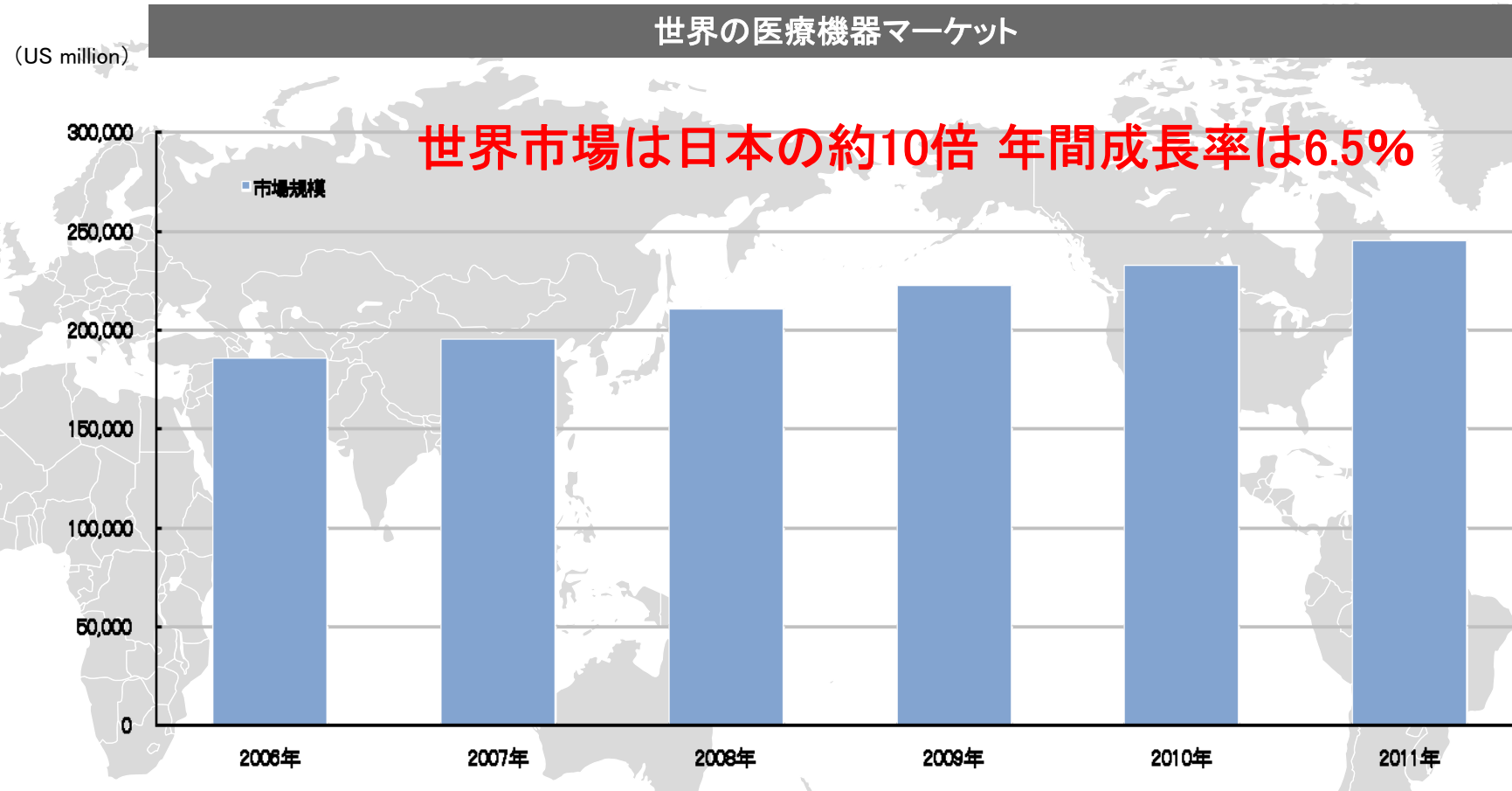


国内医療費の推移



高齢化に伴う患者数増大でマーケットは拡大が見込まれる

市場規模(海外)



出典) 厚生労働省 2008年新医療機器・医療技術産業ビジョン

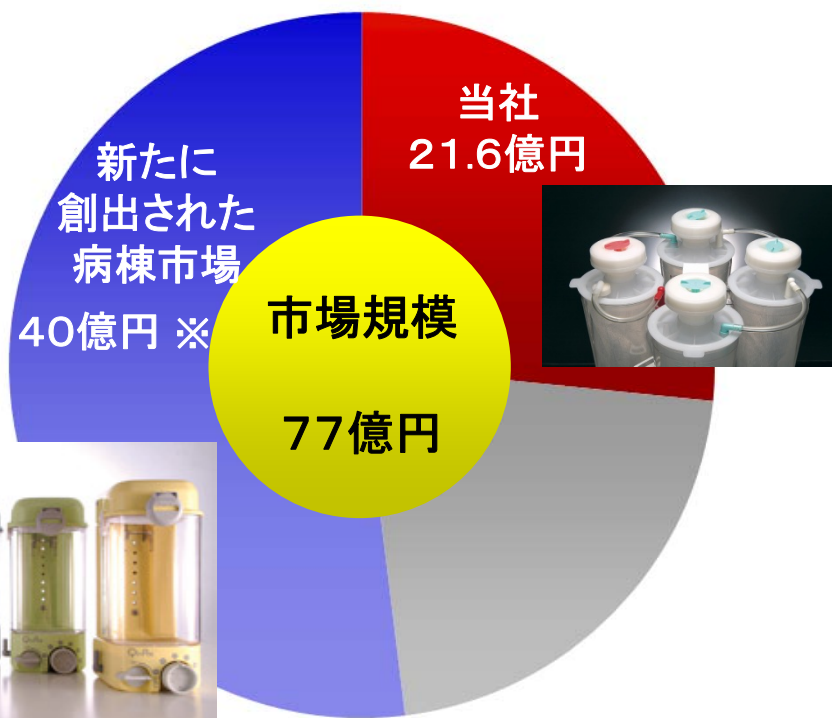
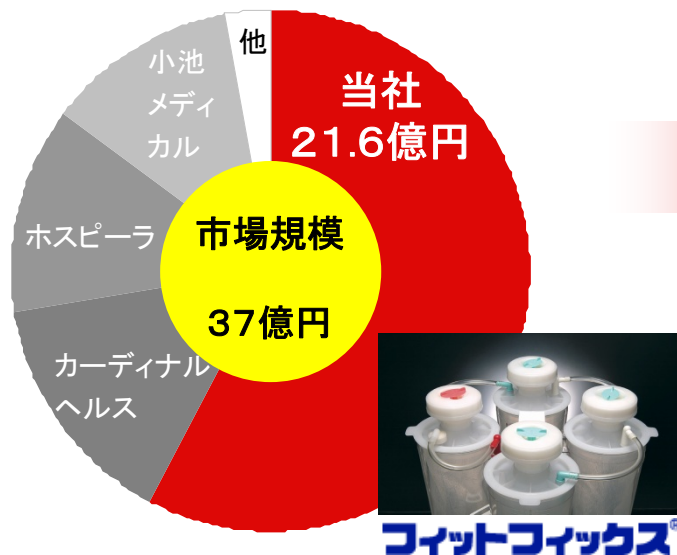
今後の成長戦略

製品	<p style="text-align: center;">① 既存製品</p> <p style="text-align: center;">現存市場の強化・拡大</p> <p>現存市場での競争力を高め、周辺市場を取り込む</p> <p><具体例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・QinPot ……病棟市場のディスポ化 ・シリンジエクター ……薬液のプレフィルド化(研究段階) ・シリンジエクター ……新型PCA装置(研究段階) 	<p style="text-align: center;">② 新製品</p> <p style="text-align: center;">医科領域拡大</p> <p>これまでに確立した麻酔科との信頼関係を手がかりに外科、救命救急等への連携医科領域を拡大する</p> <p><具体例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳保護装置(研究段階) ・内視鏡手術支援ロボット(研究段階)、等
	市場	③ 海外展開
<p style="text-align: center;">海外市場</p> <p>代理店を通じて海外展開を積極推進</p> <p><具体例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに40ヶ国以上、49の代理店と契約済 		<p style="text-align: center;">海外生産</p> <p>品質維持を大前提として、アジア等での生産を推進</p> <p>コストダウンを図る</p>

フィットフィックス関連 ～病棟にも安全と簡便を

手術室における吸引器トップシェアのフィットフィックスに続き、病棟専用開発されたキューインポットが、新たに40億円の市場を創出。

国内市場シェア(2007年度)



出典：矢野経済研究所「2008年版 汎用品市場の将来展望」



※当社病院実績情報より算出

手術室ではフィットフィックスがトップシェア

病棟においてもキューインポットがトップシェアを目指す

シリンジェクター関連 ～より安全で簡便な新しい麻酔へ



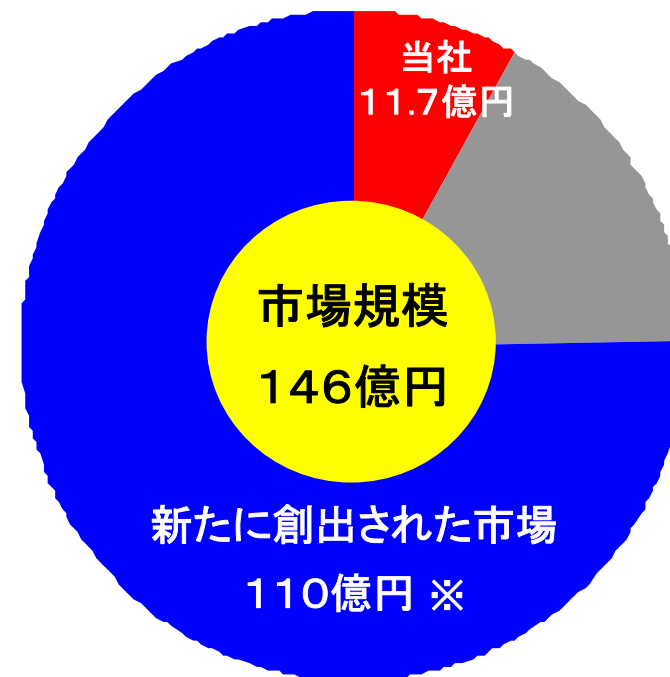
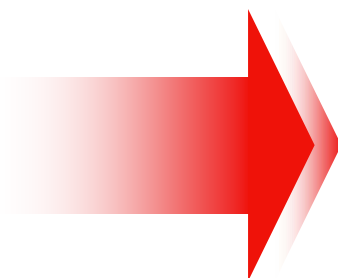
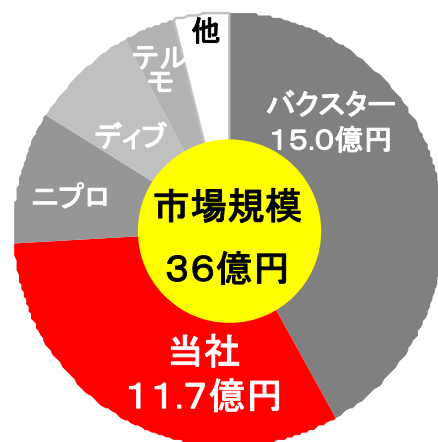
プレフィルド型医薬品注入器の開発

- 調剤間違いの防止
- 充填に伴う汚染の防止

新型PCA装置の開発

- IV-PCAへの対応

国内市場シェア(2007年度)



出典：矢野経済研究所「2008年版 汎用品市場の将来展望」

※「2005年薬事工業生産動態統計」(厚生労働省医政局)の数値を基に当社にて算出

脳保護装置 ～ 救命救急領域の研究開発

- 病院外心肺停止患者10万人(国内)の生存率の向上を目指す(現在は1ヶ月後生存率10%程度)。
- 大学病院を中心に全国病院、救命救急センターで臨床研究を実施。

「世界初となる独創的な技術で医療に革命をもたらす」

咽頭冷却カフ(使い捨て)



冷却水循環装置(機器)





商品開発研究所(大阪府和泉市)

本資料及びIRに関するお問合せ先

大研医器株式会社
管理本部 財務・経理グループ

TEL 06-6231-9917

URL <http://www.daiken-iki.co.jp/ir/>

本資料における将来の予想等に関する各数値、戦略等は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。実際の業績等は、様々な要因により予想とは異なる結果となる可能性があります。